

景況調査

(平成27年1月～3月期)

平成27年1月～3月期の守山企業景況調査の結果は、次の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

平成27年1月～3月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの主要4指標全てで前回調査より数値が悪化した。

〈業況〉

業況DIは▲30.2で前回調査の▲21.0から9.2ポイント悪化した。業種別では、小売業▲47.1(前回調査比▲27.1)、製造業▲45.5(前回調査比▲45.5)、建設業▲9.1(前回調査比+19.1)、サービス業▲22.2(前回調査比+14.6)、卸売業▲50.0(前回調査比▲16.7)と製造業の落ち込みが目立つ結果になった。

4月～6月期見通しは全体で▲28.3であり、数値に大きな変動は見られない。

〈売上高〉

売上高DIは▲34.4で前回調査より6.7ポイント悪化した。業種別では、小売業▲55.6(前回調査比▲8.5)、製造業▲36.4(前回調査比▲36.4)、建設業▲9.1(前回調査比±0)、サービス業▲22.2(前回調査比+19.9)、卸売業▲83.3(前回調査比▲33.3)であり、製造業と卸売業の落ち込みが大きい。

4月～6月期見通しは全体で▲18.8となっており、今回実績に比べて15.6ポイントの上昇となっている。

〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは▲35.5で前回調査より13.6ポイント悪化した。業種別では、小売業▲44.4(前回調査比▲15.0)、製造業▲54.5(前回調査比▲46.2)、建設業▲0.0(前回調査比+36.4)、サービス業▲29.4(前回調査比▲7.2)、卸売業▲60.0(前回調査比▲60.0)で製造業と卸売業

の落ち込みが激しい。

4月～6月期見通しは全体で▲28.1であり、今回調査実績より7.4ポイント上向いている。

〈資金繰り〉

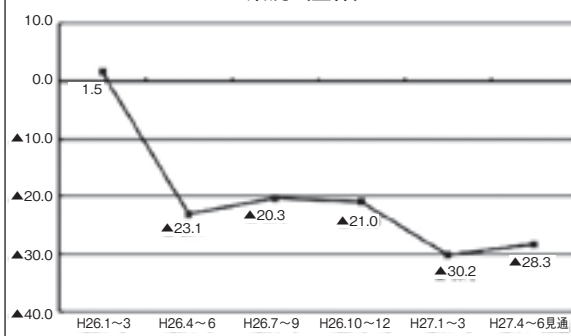
資金繰りDIは▲12.7で前回調査より7.5ポイント悪化した。業種別では小売業▲12.5(前回調査比+6.3)、製造業▲33.3(前回調査比▲33.3)、建設業▲10.0(前回調査比▲10.0)、サービス業▲7.1(前回調査比▲7.1)、卸売業▲0.0(前回調査比±0.0)であった。

4月～6月期見通しは全体で▲23.5であり、今回調査実績より10.8ポイント悪化となっている。

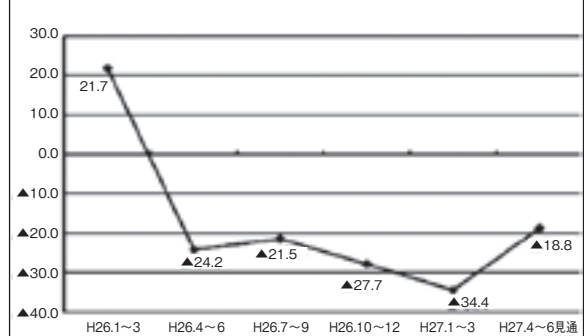
〈その他の意見〉

- ・春先の商品仕入れ単価の上昇は異常である。
- ・アベノミクス第3の矢次第で税金、年金、積立金が目減りするかと思うと将来少し心配である。
- ・中小零細企業は時流に合わせた経営をしてゆくしかないと思う。
- ・アベノミクスが始まる前の方が良かった。

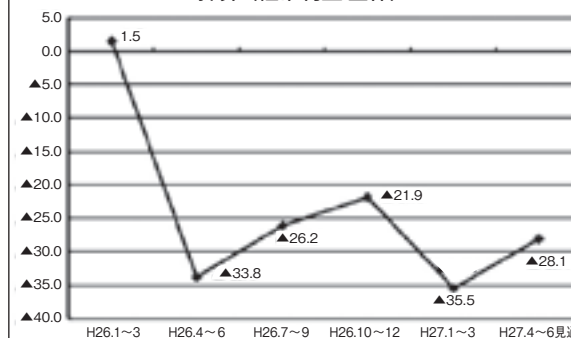
業況 (全体)



売上高 (全体)



採算 (経常利益 全体)



資金繰り (全体)

